

混沌とした中から

マインドマップ (6)

いろいろこれまで5回にわたってマインドマップについて説明してきました。数年前から知られ始め、いろいろな形で名前だけは知っているけど実際のところは使ったことがないものではなかったかと思えます。しかし、マインドマップは頭の中に浮かんだものを図形として紙一枚に表現しようとするものです。マインドマップの本には「できる会社はマインドマップを使って業績を伸ばしている」といった宣伝文句が踊っています。はたしていかがなものかと思っているのは私だけでしょうか。これまで説明してきているにもかかわらず実際にチャレンジしてみようかと思いつきながら踏み切れないのはどうしたものでしょう。一つには図形で表現する、いろいろな色を適切に使うといったところが障害になっているものと考えています。プレゼンテーション能力といったものを考えた場合、一般的には文字データよりも図形データを多くしなければよいプレゼンテーション資料とはならないといわれています。しかし、今の若い方々を別にすればどうしても文章で説明しようとしてしまい、文字だらけの資料になってしまうのではないのでしょうか。そのような年代にとっては「マインドマップ」はいろいろいいことが書いてあり、ごちゃごちゃになった頭の中を整理するには便利そうなものであるように感じはするのですが、なかなか使おうというところまでいかないのではないのでしょうか（もちろんこれは個人的な考えではあるでしょうが）。実は今回マインドマップの説明を始めたのも、もう一度どういうものなのかを確認してみたい、作り方も確認してみたいということの本屋でマインドマップの本を見たときに感じたためです。マインドマップ自体は何年か前から知っていましたが、3年ほど前の確かアスキーDOT PCの雑誌の付録に解説書（これがどこかへ行ってしまっているのですが）が付いていてから気にはなっていました。ずっと気にはなっていたのですが一度も書いたことがない（書かない理由は簡単です、付録の解説書がどこかへ行ってしまっているからという屁理屈ですが）、やってみたいと思っはいたのですがそのまま。これまでもいろいろなことを自分の中で分析しまとめようとするときには紙に思いついたことを羅列しながら、それを繰り返すことにより考えをまとめていく方法をとっていましたから、今回大きな検討課題を分析しまとめていく必要があり、その検討のなかで「そういえばマインドマップというのがあったな」と思い出してみたわけです。実際始める前に改めてマインドマップについていろいろ調べ自分ながらに解説してみました。結果としては使っていないのですが、それはいろいろ事情の変化があったためもあります。

マインドマップは正直なところ個人的にはちょっと敷居の高いもののような気がしています。日本人にどれだけ受け入れられるかも個人的には疑問があるような気はしています。ただ、単なる食わず嫌いの意見であることも否定できません。本にはまず簡単な物語を使ったり、自分についてから始めてみる方法が書かれています。確かにはじめから大きなものを題材にすると振り返りにあうのは明確です。段階を踏んでマインドマップの表現方法を少しずつでも習得しながら始めてみるのはどうでしょうか。いろいろ調べた中では12も基本ルールがあるのはいかがなものかとは思いますが、まず自分を題材に始めて本のやり方を真似しながら実際に書いてみるのがやっぱり大事なことではあると思います。いつまでも「よさそうだけどうまくいくかな」とか、「そんなに簡単に書けるかな」などと考えていては始まりません。一度「マインドマップ」を始めてはみませんか。（連載終了）

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 8月25日号

特集 Office 2007互換性ガイド

→Office 2007には新しいファイル形式が採用されたことによってそれまでとの互換性をとるため注意が必要となる。それまでのファイル形式は97-2003形式として基本的に同じだったが、互換パックがないとあけることができない。Office 2007を使うときはご注意を。

○日経SYSTEMS 9月号

特集 分析／設計からテストまで マインドマップ活用術

→今回まで連載していたマインドマップについての実施例。実際どうやって使っているかを読んで参考に。